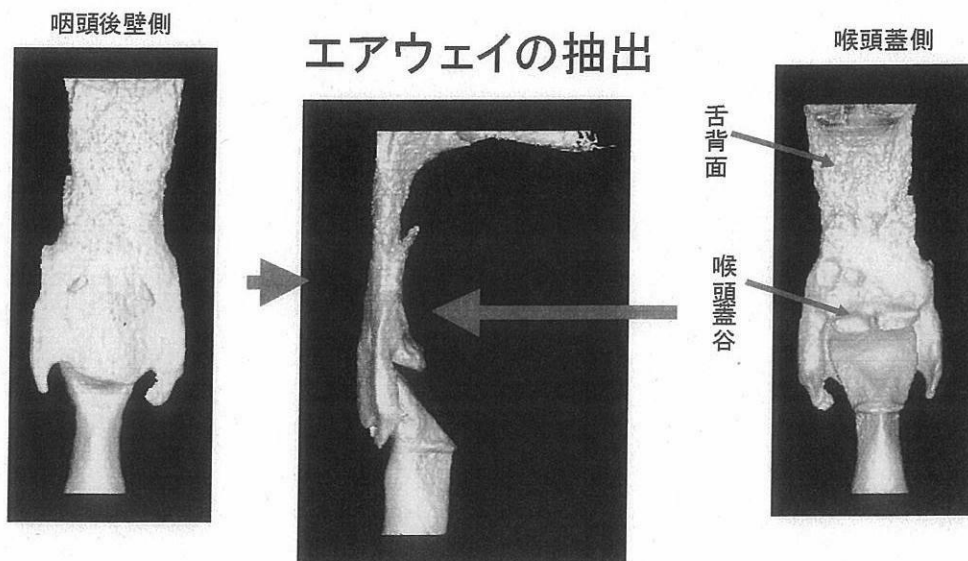


三次元造形システムにより作られた模型を用いることにより、咽頭腔のエアウェイの最狭部位の位置や同部位の断面、最狭部位の三次元形態の特徴などについての視覚的に容易に評価可能であることが示唆された。

今後、このシステムを使って小児期と高齢期の咽頭腔の特長について解析を行う予定である。



参 考：

- 1) 曾根由美子ほか：歯顎顔面用コーンビームエックス線 CT を用いた摂食・嚥下器官の 3 次元的評価 喉頭蓋の形態とその成長変化，小児歯科学雑誌，45 (3)，377-383，2007.